

令和7年度 江戸川区立篠崎中学校学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート） 1

学校教育目標	・よく学び、深く考える生徒 ・すすんで体を鍛える生徒		・思いやりと規範意識のある生徒 ・社会に貢献する生徒		目指す生徒像	・主体的に考え、行動できる生徒	
					目指す教師像	・生徒のやる気に火を付けられる教師	
前年度までの本校の現状	成果	① 就労希望者等に対しては、かながら就業支援センターと連携し、主体的な生徒会活動については教員が好評である。② 学びの二バーサルデザインを取り入れた授業実践については増補版を完成させた。③ Cの開設については準備が整ってきている。④ 働き方改革については、よく理解ではあるが普及に成果が出てきている。⑤ 学校財産については、かなりの成果が上がっている。⑥ 昨年度開設したチャレンジクラスについては、概ね良好な状況でスタートが切れている。			課題	①不登校については、全く成果が表れていない。②自己肯定感を高める取組については今後大きな仕掛けが必要である。③教員の特別支援学級での出前授業については、再度丁寧に推進する必要がある。④学力向上については焦点を絞っての教員への意識付けが必要である。⑤国際交流については、交流先を見付けることが課題になっている。⑥フィットネスエリアの活用については大きな課題である。	

重点	取組項目 評価の視点	具体的な取組	自己（学校）評価			「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けて		
			数値目標 (赤字が変更事項)	達成度		10月現状・追加取組 (赤字が追加取組)	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	校長所見	継続・ 廃止
				10月	2月									
全体共通 (通常学級)	学力向上	(1)篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた学力向上 (2)学習指導要領に対応した教員の指導力向上	①EDOSク、EDO学舎、EDO塾など、家庭と連携した学習習慣の定着 ②反転学習を導入した課題解決型学習に関わる授業研究を計画的に実施 ③調べる学習コンクールへの出品を軸にした、読書科の充実	国学力調査国語・数学・英語の平均正答率が、都の平均値以上 R6 国語科45.4％理科60.6％道徳58.0％ 数学科55.0％国語56.8％道徳52.5％ 読書科62.5％10％道徳52.0％国45.0％ 図書館を使った調べる学習コンクール、区内受賞者10名以上 R6⇒52.9人、内 区外受賞5名	×	△	本年度から定期考査前コースと過年中生で溢れている。（計画が未確定） 全教員が実施し、事例集も完成させることができた。	B	・部平均と比較すると学習効果は感じることから大切 ・反転学習の授業や実践を通して、一貫授業のあり方を知りやすくなったことが大切 ・教員のスキルが変わってきているので、各種サポート方針も検討できると感じています ・計画はできていないが、学力調査、調べるコンクールでは一定の成果を出している ・先生方に連携していただきたい	B	補習教室等の参加率は出ているが、学力向上になっているかは不明。 B 研修及び研究授業を通して、教職員の技術も高まった。効果的に行える側面もあるが、生徒へ確実に取り組ませるためにはどうしたらいいかという課題も残った。 B 調べる学習コンクールへの出品は出ているが今後は質の向上が重要。	・学力調査の結果はけっこういいと思う ・反転学習の実践例と充実させると同時に生徒の理解度、思考力について工夫が必要になると思います。 ・教員の指導力も向上しているように感じる ・課題解決型、新しい学習に取り組みでください ・教員学習の仕方を生徒同士で教え合ったり、話し合うことも大切 ・取組を通じて少しずつ効果が出ていていると思う ・反転学習には期待しているので、定期的に効果を教えて頂きたい ・学力向上のために学校と連携しているのが評価できる	新たな学力向上施策を考える。学習指導については継続するが事業としては廃止	廃止
	体力向上	(3)豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	①本校の課題を意識した保健体育科の授業における補助運動の充実 ②「フィットネスエリア」を活用した個に応じたトレーニングの各部活動等での活用推進	全学年平均の都の平均以上 R6 1年男子：34.50 女子：41.1× 2年男子：40.8× 女子：46.70 3年男子：49.60 女子：51.40 全体264.2の平均は都の平均以上	○	○	種目に応じて体育で実施している。 △	B	・フィットネスエリアの更なる有効活用 ・保健体育科としての具体的な実践例と成果を知りたい ・活動が軌道にのって来たが、まだまだ拡大拡充を図る必要がある	B	単元ごとに今以上の工夫改善を図っていきたい。 B 他の部活動にも働きかけていきたい。	・使用は思ったより少ない ・体力向上手帳で持久走の距離、フィットネスエリアの器具の使用回数、時間や評価、表彰などはどうか ・手帳の活用と目的と目標を更に促せる仕組みがある良いかもしれない ・現在の履修よりもスペースが拡大できれば個人利用を求めるとに対応しようと思います。 ・フィットネスエリアの活用がより進みます	使用を深めて、更なる向上を目指して継続	継続
	健全育成	(4)自己と他者を大切に、多様性を認め合える人権尊重意識の涵養 (5)生徒理解に基づいた支援の充実 (6)「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた不登校支援の充実	①道徳地区公開講座を充実しての学校と家庭の連携を図った道徳教育の充実 ②職員の人権尊重教育に係わる研修の充実（フィールドワーク等） ①生徒会活動を奨励した、より主体的な生徒会活動の活性化 ②「いいところ見つけ週間」を設定しての生徒同士の評価を与える機会を設定した自己肯定感の涵養 ①ほつとルーム及びチャレンジクラスを活用した支援の充実 ②不登校・不登校傾向の生徒の部活動や地域活動への参加を促進	いじめの認知件数 4件 重大事案 2件 hyper-GUJ 2回目において、学級生全学年対象が全体の10％以下 R6 1年7％ 2年17％ 3年10％ 不登校もしくは長期欠席者のうち、外部専門機関につながっていない生徒0人 R6⇒2人	○	◎	本年度の保護者等へを交えた授業は評判が良かった。 いじめ10件、重大2件 フィールドワークでなく、WISCの実施研修を行い、2月に山谷探りの研修を予定 学年掃除機及び時計、プール用スノコ、女子受衣洗濯機を購入 連人ちゃん表彰に変えて実施（12月現在31名受賞） GULは累計が終わっていない 不登校もしくは長期欠席者のうち、外部専門機関につながっていない生徒0人 R6⇒2人	A	・授業が良くてできる印象 ・生徒会がもっと主体的に相互理解を深められるイベントなど企画できないか ・生徒一人ひとりと向き合った取組みを行っている ・これからの人生を生きている生徒一人ひとりのために、アンダーマネジメントの取組みを行うことを提案する ・道徳地区講座による充実を望む ・職員の人権研修を継続させてください ・生徒会いいところも新しい、いい試みだと思います ・不登校減らして！！	A B A B A A	本年度の3年生の取組を発展させたい。 3学期に山谷探り視察が本当にできればA。是非とも実施したい。 各種専門委員会を主体的に活発な議論が行われ適切な執行ができた 連人に該当する内容が浸透しておらず生徒同士で認め合う環境が今後必要。 ほつとルーム・チャレンジクラスへのつなぎを各学年しっかりとおこなうことができた。 9組の生徒が、学芸発表会などで、舞台にたって発表を行うことができた	・様々な取組みにチャレンジしているところが素晴らしい ・生徒にも指導の効果も表れているように感じます ・学校で怒る様々なトラブルや問題意識自分自身で考える機会をつくる。特に解決策を考える体系的な学習も必要 ・SNS対策として、情報モラル教育情報リテラシー教育を計画的に行う ・現代の社会や必要なスキル、知恵を中学校の時より身に付ける仕組みは素晴らしいと思います ・連人ちゃん表彰への推薦数が少しずつ増加しており、様々な分野での連人を今後も発見できると素晴らしいと思います。 ・生徒からのアンケートにあった「夏期のジョージン賞」について可能であれば生徒に意見、検討を求める会議を更に深められるのではと思いました。 ・生徒・保護者・教員に対してのそれぞれの学びの場がある事は評価できる ・ボランティア活動の取組みが評価できる	保護者等の参加を今まで以上に促して継続する フィールドワークを重視し継続 PTAとの連携を強化し、充実させる 「あなたを助ますプログラム」の導入をいい、「いいところ見つけ」は廃止。 本校の中核をなす取組として位置付け継続 主任児童委員の方々と連携し継続していく	拡充 継続 廃止 継続
	共生社会	(7)共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	①日常的な交流及び共同学習の機会を設定した、交流及び共同学習の更なる充実 ②全教員による年間1回以上の特別支援学級における出前授業の実施 ③「学びのユニバーサルデザイン」を取り入れた授業の工夫改善	○全通学級担任教員による出前授業の実施 ○全教員でユニバーサルデザインを活用した授業等の工夫事例集を増補 R6 ・増補版を完成 ・出前授業全体の約30％のみ	○	○	満足、宿泊で交流。他教科でも実施している。 昨年年度8名が15名に伸びてきた。 増補版の作成には至っていない	A	・生徒一人ひとりを大切にする姿勢が取組みが見られる ・ユニバーサルデザインの実践研究を進めてください	A B B	初めて通常学級と宿泊行事を共にするなど、交流を促進することができた 計画通りに進めることができない部分があった。 個に応じた指導を全教員が取り組めるようになってきている。	・ユニバーサルデザイン等の研究は進んでいると思うが、実践は今一歩と感じます ・多様性の理解、尊重の推進が見られる ・先生方のみならず生徒1人1人にも交流を促す機会が確保できていると思います	個に応じた継続・拡充をしている。 もう少し丁寧な計画を練り実施を強化していく。 それぞれの教員が継続していくが事業としては廃止。	継続 継続 廃止
	開かれた学校	(8)「コミュニティ・スクール運営マニュアル」に基づいたCSモデル校の運営充実 (9)学校情報の積極的な配信	①地域の方々を部活動に招いた「藤中サークル」など、地域学校協働本部を活性化させた多様な活動の推進 ②1人1ボランティア運動の推進（地域祭り、夏ボラ等） ①「藤中ちゃんねる」（動画配信）の充実	○藤中サークルは役員部活動3部活 R6 ⇒ 0部活 ○年間1回以上、生徒の半数以上が地域等のボランティアに参加 R6 ⇒ 全体24％ 年間10人以上の動画の配信 R6⇒14	△	○	外部指導員51名。連携団体の変更 1年44％、2年51％、3年25％ 全体40％ 月に1回程度更新を行っているが、それにとどまっていたことが現状	A	・藤中チャンネルをバズらせる健闘が必要 ・学校運営協議会の役割を生徒や保護者によく理解してもらうための具体的な取組みを行うことが大切 ・成果がでてきていると思います	A A B	部活動の地域への移行を確信中でできる範囲で実施していきたい。 今後とも、ボランティアについては推奨をしていきたい。 定期的に更新しているが、今まで以上に更新には至らなかった。	・地域の方々と共に学ぶ藤中サークルとして発展させ継続 私のボランティア手帳を配布し、継続維持していく。 藤中ちゃんねるの番組作りを再検討する。	拡充 拡充 継続	
	その他	(10)教員の生徒と向き合う時間の確保 (11)より良い学校設備の整備・充実 (12)食育の推進	①篠崎中学校「働き方改革推進計画」に基づいた働き方改革の進捗管理 ②学校のデッドスペースを活用した、教育スペースの確保・有効活用 ①家庭科と栄養士の連携を図った生徒の考えた「優秀献立」の充実	超過勤務時間、月45時間以内年間6月の月以上が全体の7割 R6 1人1ボランティア運動の推進 R6 ・増補版を完成 ・出前授業全体の約30％のみ	○	○	R7は、資料室及び図書準備室を整理できた。 本年度も実施ができた。	A	・教員の働き方課題 ・教員の仕事は限りなく多い。しかし教員一人ひとりの人生も豊かにする必要がある ・働き方改革は教委の支援がもっとあると思う。特にインフラ整備A活用し期待したい ・これこそ新しい発想で今まで誰も手を付けなかったことです ・家庭科頑張れ！！	C A A A	推進計画の見直しを図りたいが、今年度は図ることができなかった。 次年度までに今年度分はしっかりとやり遂げたい。 今年度も継続できたことで、まずはいいと思う。	・(11)(12)はよくやっていると思います。(10)については管理者と教員で協力してよりよい環境にしてください 本年度、一定程度完了したが、デッドスペースは再確認 ・自習室の利用を希望している生徒がどのくらいいるか見えました。 新たな取り組みへと変更する	継続 継続 廃止	

重点	取組項目 評価の視点	具体的な取組	自己（学校）評価（A～D）			「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けて			
			数値目標 （赤字が変更事項）	達成度		10月現状・追加取組 （赤字が追加取組）	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	校長所見（案）	継続・ 廃止	
				10月	2月										
特別支援学級（8組）	学力向上	(1) 竜崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた学力向上		○	○	レディネステドでのクラス分けを実施。	A	・ 出来ている ・ 今後とも保護者の様々な考えや想いをしっかりと聞き、受け止めて、教育活動に生かしてもらいたい ・ 学習指導は充実していると思います	A	出来ている。		・ 来年度、英語に取り組む意欲に期待しますが、事業としては廃止。新たな学力向上策を考える。	廃止		
	(2) 学習指導要領に対応した教員の指導力向上	○各教科等の目的や自立活動、作業学習等の目標を意識した適正な教育課程の編成		○教育課程に基づいた関連資料（各教科の年間計画）の見直し	○関連資料の見直しを図り、指導の重点化が図れた。	A		出来ている。	発達し等がいてい程度困れたため事業としては廃止。今後は探究的な学習を重視する。						
	向体力向上	(3) 豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	○朝のトレーニング週間を設定しての体力の向上	○1回は概ね1週間、学期に1回程度	△	△	生徒及び教員の負担増になっている。	B	B	回数、実施方法は今後に向け検討していく。	・ 朝トレはいい方法を考える又は別の方法を考える ・ 生徒のモチベーション向上に向けて継続したいと思います	形を変えての実施を検討し、本事業としては廃止。	廃止		
	育健全	(5) 生徒理解に基づいた支援の充実	○野菜や雑草販売、喫茶店などPTAと連携した作業学習の充実	○PTAと連携した作業学習を年間3回以上実施	△	△	土曜授業の回数変更に伴い、3回実施でできない。	B	B	篠フェスの一回のみの実施となりました。今後の計画にもない。	・ ボランティア参加と色々な機会を活動してほしい ・ 販売や出店作業は仕事につながる機会なので期待しています ・ 大変だと思いますが、継続していただきたいです。	回数を増やすことを視野に入れ継続	継続		
	共生社会	(7) 共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	○日常的な交流及び共同学習の機会を設定した、交流及び共同学習の更なる充実	○通常学級生徒の交流給食の受け入れ	×	×	交流及び共同学習は進んでいるが、日常的な交流は不十分である。	B	・ これからのインクルーシブには必要なことです。先生方も頑張ってください。	A	3学期に3年生と交流給食を実施した。		・ 中間評価のコメントと同じです ・ どうしても通常学級になじまない生徒には長期的な支援が必要だと思えます。	個に応じてそれぞれの交流の場を増やしていく。	継続
		○全ての通常学級担当教員による年間1回以上の出前授業の受け入れ体制の構築	○出前授業の年間実施計画の作成	△	△	出前授業の実施率は上がっているが、100%にはなっていない。併せて計画も作るのが難しい。	B		教育課程の編成上、計画的に進めることが難しくなった。	次年度は全教員が授業を実施することを強化し、実施	継続				

チャレンジクラス（9組）	学力向上	(1) チャレンジクラス運営マニュアルに基づいた学力向上	①学年の枠を超えた3クラス6展開の習熟度別自由進度学習の研究		○	○	A	・ 学習環境が良い ・ 学習数値目標が必要 ・ 学校全体がチャレンジクラスの生徒をしっかりと受け止めていると思われる。生徒も確信に来ることを楽しんでいるようである。 ・ はじまったばかりで課題・改善点は多々あると思う。けれど、外部からは見えないことが多くコメントできません。なないうで見学したときは、いい雰囲気であった学習態度でした ・ 努力されている事に感謝します	A	実施できている。	・ 評価は特別なので研究の余地はあるが出席がよければ効果も上がっていると思います ・ 中間評価で一度伺った際には授業も温かく安定した様子に感じられました。メンバーの変動や学習進度のずれなど、通常学級と異なる工夫が必要なことも多々あると思いますが、継続していただきたいです	人数が増えでも維持できるような体制の構築	継続	
			②音楽科、美術科、技術科、家庭科における、週時程に弾力性をもたせた指導の実施		○	○			概ね出来ており、形が出来上がってきた。	A		実施できている。	指導体制の維持、継続	継続
			③定期考査を廃止し、評定によらない評価の実施、個々の学習進度に応じた実力テストを実施		△	△			実力テストは出来ておらず、個別に把握を行っている。	B		評定によらない評価は実施しているが、実力テストはできていない。	評定は行わないが、学力調査の実施を推奨する。	継続
		(2) 学習指導要領に対応した教員の指導力向上	①理科・社会科における、自己の課題の解決に向けた調べる学習と定期的な発表会を実施		○	○			課題解決型学習に図れるようになってきた。	B		調べる学習や発表会の場を設ける授業もあったが、改善の余地がある。	工夫改善を行い継続	継続
	向体力向上	(3) 豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	①専門家等と連携した自律神経を整える運動、通称名「リラックス」の実施		△	△	B		B	専門家との連携は図れていない。	・ どのくらい評価できているか不明 ・ 8組と同様に運動への積極性の経過が課題だと思います	専門家等と交えるに学校としてのノウハウを構築	継続	
	健全育成	(5) 生徒理解に基づいた支援の充実	①標準服や体育着の着用を求めないなど、生徒の実態に応じた「きまり」の抜本的な見直し		○	○	B	・ 9割以上の生徒が標準服や体育着で登校しているが、学校や学年行事の際はTPOをわきまえて着用している ・ 修学旅行は中学校生活の一大イベント。9組の生徒だけで近隣県をで遊べるのか？参加生徒が増えるのではないだろうか？参加生徒が増えるのはいいと思う ・ 不登校対応が改善されている ・ 義務教育後の進路については、生徒や保護者も不安を感じていると思われる。キャリア教育の視点から生徒や保護者と一緒に考え、教育活動を進めてほしい ・ 不登校が一人でも少なくなることを期待したい	B	生徒の実態に応じて「きまり」を随時見直すことができた。	・ 登校率が抜群に高い。指導の成果だと思います ・ 入級準備や通常学級への復帰など「移行」を意識した学習体制の確率である生徒への不安やストレスの軽減につながっていると感じました。 ・ 今後は生徒数の増加とケア体制の両立のためのハード面、及び生徒のコミュニケーションや主体性を確保する取組が課題になると思います ・ 不登校対応が進んでいると思います	きめの細かい個別の対応を行いながら対応していく。	継続	
			②日々の記録を続けることができる連絡帳「マイライフ」を活用した支援		○	○			マイライフからL-Gate（電子版）に変更	A		「マイライフ」から「L-Gate」に変わり、毎日生徒とやり取りした。	L-gateの見直しを行い継続	継続
			③登校後の朝の時間を活用し、ソーシャルスキルトレーニング（SST）の実施		○	○			概ね出来ており、形が出来上がってきた。	A		毎日実施することができた。	朝の貴重な時間として位置付け実施	継続
		(6) 不登校支援の充実	①登校コースに併せて双方型オンライン授業による指導体制を構築	○全生徒が、入級後、全体の出席率（登校日数）の90%以上出席（オンライン含む）	◎	◎	◎	A	出席率については90%以上になっている。	A		オンライン含め90%以上の登校率である。オンラインの仕方は改善の余地がある。	双方型のオンライン授業体制を構築させ実施	継続
			②従来の教室環境を一掃し、生徒がより主体的に学べる教室環境の整備・充実		○	○	○		人数増に伴い工夫が必要になる。	B		生徒数が多い時にはかなり手狭になっているので、改善の余地がある。	人数が増えた場合を想定しながら、再構築していく。	継続
③「ほっとルーム」をプレ学級（準備学級）と位置付け、学習意欲の向上等、入級準備				◎	◎	◎	本年度は特に、ほっとルームからの転級生徒は増加している。		A	今年度ほっとルームから9組に転級してきた生徒の接続はよかった。		本校の中核をなす取組として位置付け継続。	継続	
④年間を通じた農業体験やセカンドスクール等、平素と異なる生活環境での体験的な学習を実施		◎	◎	◎	通年や宿泊のバリエーションが増えてきた。	A	体験活動が多く、かなり充実させることができた。	生徒の主体性を生かしながら継続	充実					
社共会生	(7) 共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	①特別支援学級との交流給食の実施	○1回1週間程度を目途に、年間3回実施	○	○	○	A		A	毎学期、交流給食の実施が出来た。	・ 形式的にならずに実のあるものにしてほしい ・ 継続していただきたいです	頻度を上げての実施	継続	
開かれた学校	(8) 地域コミュニティの拠点としての取組の充実	①地域と連携した「ウェルカムフラワー運動」を委員会として実施した帰属意識の涵養を図る。		◎	○	○	A	・ 一定程度の定着が図れてきたが、もう少し見栄えがよいものにした。	A	地域と連携して「9組お花委員会」として花壇の整備をすることができた。	・ 目に映える効果が出ているので数回になっていると思います ・ 地域の方との交流、協力が花という形で表れるのが素敵で続けてほしいです ・ 地域との連携を通じた活動はぜひ今後も継続してください	今以上に華やかな場所にできるような働きかけ。	充実	
		②生徒の部活動や地域活動への参加を促進する。	○本校部活動も、もしくは、地域のボランティアサークルに参加するする生徒の割合が2割以上 R6→25%	◎	◎	◎	部活動やボランティアでの活躍が目立ってきた。	A	・ ボランティア参加人数が多いと感じる。 ・ これまでの学校の取り組みを通して、地域によく認知されている。地域にも好影響を与えている	A	半数程度は部活動に入り活動することができた。	・ 9組の生徒が部活に入るだけでも素晴らしい ・ 生徒の主体性と達成感を醸成する取組だと思います	今以上に働きかけ継続していく。	継続